

## (西都台小学校の強み)

### 〈児童アンケートの結果から〉

#### 【やる気】

- ◎ ①家庭学習に進んで取り組んでいる。
- ◎ ②相手の話を聞いたり、自分の考えを伝えたりしている。
- ◎ ③授業の内容がよく分かる。

#### 【元気】

- ◎ ⑤交通ルールを守って、登下校している。
- ◎ ⑥毎日、朝食を食べている。

#### 【根気】

- ⑨友達や周りの人を大切にする言葉遣いをしている。
- ⑩楽しい学校生活を送っている。

#### 【学校】

- ◎ ⑰学校は、教育的効果を高める ICT の活用を実践している。

#### 【考察】

- ・本校は落ち着いた中で授業に取り組んでおり、学習に対する意識も高い傾向にある。そのため、「家庭学習に進んで取り組む」や「授業の内容はよくわかる」のポイントが高いと考えられる。
- ・「相手の話を聞いたり、自分の考えを伝えたりしている」や「友達や周りの人を大切にする言葉遣いをしている」については、昨年度から導入した人間関係プログラムで『アサーショントレーニング』や『ふわふわ言葉・ちくちく言葉』などの具体的なトレーニングを積んだ成果であると考えられる。
- ・交通ルールや朝食摂取など、健康安全面については、家庭の教育力の高さが影響していると考えられる。
- ・ICTの活用の実践については、他校に先駆けた二大行事の YOUTUBE 配信や、出席停止者へのリモート授業の実施、ハイブリッド型の参観会等の実践によるものといえよう。
- ・「楽しい学校生活を送っている」はこれらを集約した意見である。今後も 100%に近づけるよう、課題を強みに変えるよう策を講じたい。

### 〈保護者アンケートの結果から〉

#### 【やる気】

- ⑫先生は、分かりやすい授業をしている。

#### 【元気】

- ◎ ⑤交通ルールを守って、登下校している。
- ◎ ⑥毎日、朝食を食べている。

#### 【根気】

- ◎ ⑩楽しい学校生活を送っている。

#### 【学校】

- ◎ ⑮学校は、学校の様子をよく発信している。
- ◎ ⑰学校は、教育的効果を高める ICT の活用を実践している。

#### 【考察】

- ・「先生は、分かりやすい授業をしている」について評価が高い。これは、先生方の普段の教材研究の賜物であり、ありがたい評価である。
- ・児童同様、健康や安全への意識の高さが結果に表れている。特に、交通安全については、保護者の方による旗振りや交通ボランティアの皆様の見守りによる成果である。
- ・保護者アンケートの自由記述欄には、「ブログによる定期的なアップで学校の様子がよく分かる」という御意見を多数いただいている。このような意見から「学校は、学校の様子をよく発信している」の数値が高いことが分かる。
- ・同様の記述には、「集団登校や縦割り清掃などの異学年交流がよい」「毎日楽しく学校へ行くことができている」「担任の先生がとても丁寧に見てくださる」という御意見をいただいている。多くの保護者は、御自分の子供が「楽しい学校生活を送っている。」と感じている。
- ・今後も、家庭や地域とともに「未来の西都台の人材」づくりのために、きめの細やかな教育活動を展開していかなければならないと再認識した。

## (西都台小学校の課題)

〈児童アンケートの結果から〉

【やる気】

特になし

【元気】

▲ ④元気よく外遊びをしている

【根気】

▲ ⑧あいさつを進んでしている。

【学校】

▲ ⑩学校は、学校の様子をよく発信している。

【考察】

- ・「元気よく外遊びしている」は、児童が74%であり、目標値を6%下回った。しかし、教室で友達と談笑したり、好きなイラストを描いたり、本を読んだりして過ごす児童が多い。「外で元気よく遊ぶこと」のみを認めるのではなく、子供の行動を多角的に認める大人の発想の転換が必要なのではないかと考える。
- ・「進んであいさつしている」は、児童90.2%、保護者78.5%である。児童は、低学年で96.8%(r3)→90.5%、高学年では93.9%(r3)→90%と減少している。昨年度は「あいさつのちかい」を話し合ったりして盛り上がりの機運があったが、多少活動がマンネリ化していることも予想される。
- ・「学校の様子をよく発信している」については、保護者97.7%に対して児童85.2%となっている。特に低学年「そう思わない」が14.2%を占めている。保護者はスマートフォンなどで気軽にHPを閲覧できるが、児童はHPを見る機会が少ないことが予想される。タブレットの持ち帰りによる家庭での閲覧による団らんの中での会話作りや、授業開始時の学級での閲覧による話題作りなどを工夫する必要があるといえる。

〈保護者アンケートの結果から〉

【やる気】

①家庭学習に進んで取り組んでいる。

③授業の内容がよく分かる。

【元気】

特になし

【根気】

⑧あいさつを進んでしている。

【学校】

⑩学校や先生は気軽に相談に乗ってくれる。

【考察】

- ・「家庭学習への取り組み」や「授業理解度」については、児童と保護者の認識に乖離がみられる。保護者アンケートにも家庭学習の仕方や量についての記述が多数見られる。
- ・「あいさつ」についても保護者は「あまりできていない」「できていない」の割合が21.6%、教員は26.3%となっている。職員に対しても、「まず職員から大きな声であいさつしよう」と確認している。気の長い実践をしていきたいと考えている。また、おとなしく会釈をする児童にも大人が優しく「おはよう」とあいさつするなど、多様化を踏まえた個への対応についても理解を深めていきたい。
- ・「学校や先生は気軽に相談に乗ってくれる」については91.7%の数値となっている。家庭訪問の家庭確認への変更や、コロナ禍による懇談会の減少などに起因すると考える。良い表れを含めた学級担任によるきめ細やかな家庭連絡を推し進めていくこととしたい。